

## [16\_04]九州大学大型計算機センター広報表紙奥付等

<https://hdl.handle.net/2324/1468076>

---

出版情報：九州大学大型計算機センター広報. 16 (4), 1983-07-25. 九州大学大型計算機センター  
バージョン：  
権利関係：



## お 知 ら せ

## 昭和58年度プログラムライブラリ開発課題について

採用されたプログラムライブラリ開発課題は、下表のとおりです。なお、これらの開発計画については、本センターでは随時募集していますので、どしどし応募してください。

開発番号	課 題 名	開発者(所属)	開発期間	開発時間	新規/継続
12. 1	ユーザ定義文字のNLP出力支援 プログラム開発	国宗 真 (福女大) 南 俊朗 (九大・理)	1983. 4. 1 ) 1984. 3. 31	分 180	継 続
12. 2	多元連立微積分方程式の散乱解の チャンネル結合変分法による解法	上村 正康 (九大・理) 八尋 正信 (水産大)	1983. 4. 1 ) 1983. 9. 30	90	継 続
12. 3	IPSPルーチンによるリモート センシングデータ視覚判読分析の ためのプログラム	梅干野 晃 小田 建一 藤井 修 (九大・工)	1983. 4. 1 ) 1984. 3. 31	120	継 続
12. 4	言語処理系開発ツールMYLANG の機能増強	安在 弘幸 山之上 卓 (九工大)	1983. 4. 1 ) 1984. 3. 31	90	継 続
12. 5	多変数関数型データの表示解析シ ステム	大脇 信一 (熊大・教養)	1983. 4. 1 ) 1983.10.31	120	新 規

(センターニュース№271, 4月11日発行)

## 新規に登録されたライブラリについて

IDコード	内 容	形 式	作 成 者	参 考 文 献
L2/S4J	JEF日本語処理機能を 追加したSNOBOL4	コンプリート	九大・工 牛島 和夫 黒坂 輝彦 日並 順二 栗山 浩一	下記参考文献1
Y3/MARS2	2次元原子核反応スペク トル処理プログラム	コンプリート	九大・工 桑折 範彦 酒井日出男 川村 憲造	当面、プログラム相談 室または図書室の資料 を参照のこと

1. S 4 J

文字列パターンマッチングが容易である言語 SNOBOL 4 に、日本語処理機能 (JEF) を追加したもので、日本語テキスト中の文字列パターンの探索などに適しています。TSS で、S 4 J コマンドを用いて使用します。使用についての詳細は、文献 [1] を参照してください。

2. MARS 2

すでに登録してある 1 次元原子核反応スペクトル処理プログラム MARS 1 (センターニュース № 2 4 7 参照) の 2 次元の場合への拡張版です。

参考文献

1. 牛島, 黒坂, 日並, 栗山 JEF 日本語処理機能を追加した SNOBOL 4 について, 九大大型計算機センター広報, 16, 2, 1983, 155-179.  
(センターニュース № 271, 4 月 11 日発行)

九大ライブラリのレベルアップについて

1. 高速固有値ルーチンパッケージ NICER

標記パッケージ (センターニュース № 2 4 7 参照) を、作成者 (名大, 別府・二宮) の御好意によりレベルアップしました。無平方根 QR 法や高速ソートの採用, ならびに局所性の改善により 3~7% ほど高速化されています。ただし、外部仕様に変更はありませんので、そのまま御使用ください。

2. 多変数関数型データの表示解析システム

既登録の標記システム (センターニュース № 2 5 4 参照) が機能拡張されました。使用に際しては、当面プログラム相談室または図書室の資料を参照してください。

(センターニュース № 271, 4 月 11 日発行)

デジタル画像処理システム PROSID の公開

昨年センターに導入したデジタル画像表示装置グラフィカ I 5 0 4 8 のソフトウェアは、Fortran サブルーチン・パッケージ GLSP と IPSP があるだけで、この装置を利用するにはプログラミングに少なからぬ労力が必要でした。PROSID (Processing System for Image Data) は、富士通が開発したデジタル画像処理システムで、これまでミニコンピュータ PFU-1 4 0 0 / 1 5 0 0 + 画像表示装置 I<sup>2</sup>S モデル 7 0 (米国製) 上で動作するシステムでしたが、このたび FACOM M シリーズ計算機 + グラフィカ I 5 0 0 0 シリーズ上で動くものが作られました。正式版の提供とマニュアルの出版はまだですが、センターでは仮提供版が既に動いていますので、これを公開することにしました。

PROSID は、次のような機能を持つシステムで、ほとんどの処理が会話型で、しかもメニュー方式の対話により行えます。

- ・ 磁気テープ上のデジタル画像データをディスクに移す。逆にディスク上のデータを磁気テープに退避する。

- ・ ディスクとグラフィカ I 5 0 4 8 との間のデータ転送を行う。
- ・ 各種画像表示機能により画像データを視覚化し、データからの情報抽出を支援する。
- ・ 画像データ間の算術演算を行う。
- ・ 画像データの統計的解析を行う。
- ・ 画像データを様々の方法で変換し、新しい画像データを作る。
- ・ 画像処理に必要な各種ユーティリティ機能、ファイル管理機能などを有する。

機能の詳細と使用方法については、マニュアル「PROSID解説書」の原稿のコピーをご覧ください。これは、グラフィカ I 5 0 4 8 の横に置いてありますし、図書室にもあります。ただし、このマニュアルに書かれていないことがいくつかありますので、これらについて説明します。

### PROSIDの起動

PROSIDを使うには、グラフィカ I 5 0 4 8 の横に設置しているフルスクリーン機能付端末 F 6 2 6 2 を用い、つぎのようにシステムの起動を行います。

```

LOGON TSS ユーザ登録名 PROC(GRAPHICA)
      :
      :                               ↑グラフィカ I 5 0 4 8 使用のためのログ
      :                               オンプロシジャ
EXEC PROSID. CLIST(PROSID)←PROSIDコマンドプロシジャの
      :                               実行(次頁参照)
CURRENT PARAMETER FILE NEW OR OLD=OLD }
SCHEDULE DATA FILE      YES OR NO  =NO } 任意
LOGGING FILE             YES OR NO  =NO }
      :
PROSID 実行開始
  
```

PROSIDコマンドプロシジャ

PROSIDコマンドプロシジャは、利用者自身で作る必要がありますが、次の例が参考になると思います。なお、このファイルをコピーして使っていただいても結構です。

FACOM OSIV/F4 TSS V01L15 LIST COMMAND DATE 83.03.26 TIME

DATA SET NAME F0004.PROSID.CLIST(PROSID)

```

PROC 0
CONTROL NOFLUSH
ATTR F80 LR(80) BL(1040) REC(F B)
FREE F(FT05F001)
ALLOC F(FT01F001) DA('F0004.WK.U04') ← マスタ画像ファイル
ALLOC F(FT07F001) SY(A)
ALLOC F(FT09F001) DA('F0004.SMSG.DATA') ← メッセージファイル
ALLOC F(FT10F001) DA('F0004.MENU.DATA') ← メニューファイル
ALLOC F(FT11F001) DA('F0004.REFER.DATA') ← メニュー名ファイル
CALL 'APP1.PROSID.LOAD(IGRSTS)' ← イメージディスプレイの初期化
WRITENR CURRENT PARAMETER FILE NEW OR OLD=
READ &CUP
IF &CUP = NEW THEN +
  DO
    DEL 'F0004.PROSID.CURR'
    ALLOC F(FT12F001) DA('F0004.PROSID.CURR') SP(5 5) T NE CAT
  END
ELSE +
  ALLOC F(FT12F001) DA('F0004.PROSID.CURR') ← カレントパラメタファイル
WRITENR SCHEDULE DATA FILE YES OR NO =
READ &SCD
IF &SCD = YES THEN +
  DO
    WRITENR SCHEDULE FILE NAME =
    READ &SCN
    ALLOC F(FT05F001) DA('&SCN')
  END
WRITENR LOGGING FILE YES OR NO =
READ &LOG
IF &LOG = YES THEN +
  DO
    DEL 'F0004.WK.U04'
    ALLOC F(FT04F001) DA('F0004.WK.U04') SP(50 10) T NE CAT US(F80)
  END
ELSE +
  ALLOC F(FT04F001) DUMMY
CALL 'APP1.PROSID.LOAD(PROSID)' ← PROSIDメインプログラム
FREE F(F80)
FREE F(FT04F001)
FREE F(FT05F001)
FREE F(FT07F001)
FREE F(FT09F001)
FREE F(FT11F001)
FREE F(FT12F001)
EXIT

```

なお、ここに出ているファイルについては次頁を参照してください。

PROSIDのファイル

PROSIDを使ううえで意識しなければならないファイルは次のとおりです。このうち、▼印を付したファイルは、必ずシステムファイル(下の表内で、かっこで囲んだデータセット)から個人用ファイルにコピーして前項で示したような形式でお使いください。

タイプ	ファイル	内 容	論理機番	必須	備 考
コントロール ファイル	1 スケジュールファイル	自動モードのときの処理手順や画像処理タスクに渡すパラメータが記入されているファイル	5		バッチ・ユーザプロ呼出しでは必須
	2 ▼メニューファイル (APP1.PROSID.MENU)	マスタメニュー、サブメニュー、プロシジャメニューのメニュー画面及び各プロシジャメニューに対応するパラメータのデフォルト値が記入されているファイル	10	○	
	3 ▼メニュー名ファイル (APP1.PROSID.REFER)	メニュー番号とメニュー名の対応表が記入されているファイル	11	○	
	4 ▼メッセージファイル (APP1.PROSID.SMSG)	システムメッセージが格納されているファイル	9	○	
	5 ▼カレントパラメタファイル	カレントパラメタ値が記入されているファイル	12	○	
	6 ▼ロギングファイル	実行された画像処理タスクの履歴が記入されるファイル	4		
	7 ▼メニューリストファイル	メニュー画面のリスト出力が指示されたとき出力されるファイル	7		
データ ファイル	8 ▼マスタ画像ファイル	任意の形状、大きさの画像を格納するファイル	1		
	9 ▼イメージ画像ファイル	イメージディスプレイのリフレッシュメモリに対応した画像を格納するファイル	2		
	10 ▼グラフィックファイル	イメージディスプレイのグラフィックメモリーの内容を格納するファイル	3		
	11 ▼IFM } LUT } ファイル OFM }	イメージディスプレイのIFM, LUT, OFMの内容を格納するファイル	15		
	12 ▼統計ファイル	アフィン変換のタスクが変換係数を格納するファイル	16		
外部 ファイル	13 ▼MTファイル	(1) 情報処理学会フォーマットMTファイル (2) 一般のMTファイル	50		
	14 ▼出力リスト	画像処理タスクが出力するリスト	6	○	

暫定版PROSIDの制限事項

1983年2月末日現在、PROSIDには次のような使用上の制限事項があります。

1. DISP

処理方式に▼TLM2▼を指定してはならない。正しく表示されない。

2. SCROLL

マスター画像をスクロールさせると、アボートすることがある。

3. LOPFLM

使用不可。

4. MEMCL

クリヤするメモリに▼GM▼を指定すると、RM内のデータも非表示となる。RM内のデータがクリヤされるわけではないので、再表示すれば問題はない。

5. MATOID

IFM経由／バイパスの指定にかかわらずIFMを通してデータ転送を行う。タスクLINEARであらかじめIFMを作成しておくこと。いったん作成されたIFMは書きかえられるまで不変であるから、毎回作る必要はない。

6. THRS

このタスクは処理終了時にカーソルを消去するが、そののち、他タスクでカーソルを表示することができなくなる。PROSIDを終了させ、プログラムIGRSTSを走行させるともとへもどる。

7. ANOT

タスクを終了させるためのオペレーションに関して、マニュアルの記載に誤りがある。正しい記述は次のとおりである。

「一文字もアノテーション文字列を入力せず、ENTERキーを押すと処理は終了する。」

8. その他の注意点

(1) トラックボールボタン同時打鍵

二つのトラックボールボタンを同時に打鍵することがオペレーション上の意味をもつようなタスク(PLINE, DNGRF2, DISPのLTM2など)を実行すると、トラックボールボタンの同時打鍵がなかなか拾われず、プログラムに通知されないのでイライラすることがある。

(2) キャラクタディスプレイの↑キー

PROSIDに英大文字データを入力するときは、必ず↑キーを押下した状態で英字を打鍵すること。

(センターニュースNo.271, 4月11日発行)

## LOGON 督促メッセージの変更について

5月1日より、LOGON督促メッセージ“JCB9 31 I □ PLEASE □ LOGON”の後にTSSユーザ数が表示されるようになりました。ただし、このユーザ数を表示するには“ENTER”キーを押下しなければなりません。

また、TTY手順の端末ではLOGON督促メッセージが出力されていませんでしたが、今回の変更により、接続要求時の“BREAK”キー押下後、“RETURN”キーの押下によって表示されるようになりました。

(センターニュース№272, 5月6日発行)

## パーソナルコンピュータとの高速ファイル転送について

本センターでは、TSSのEDITコマンドやLISTコマンドによるファイル転送方式のほかにより高速なファイル転送を行えるコマンド(FMOVEコマンド)を用意しています[1]。

このFMOVEコマンドによるファイル転送は、従来方式(EDITコマンド)と異なり、コード変換処理がバイパスされますので、ホスト上にファイルを作成後、下記のコマンドによって調整する必要があります。ただし、この変換処理はSETCODEコマンド[2]によってコード系を独自に設定した場合を除きます。

なお、今回、FMOVEコマンドにおいても、新規データセットのレコード形式の標準値をデータセットタイプがTEXT, CLIST, FORT, およびFORT77である場合には可変長レコード形式になるように変更しました。

コマンド	オペランド
CODEC	データセット名

## 参考文献

1. 入江, 末永, 松延 FM-8用インテリジェント端末プログラム, 九大大型計算機センター広報, 15, 5, 1982, 515-529.
2. 計算機マニュアル FACOM OS IV/F4 TSSコマンドセットTTY使用手引書 64SP-2140-2, 富士通株.

(センターニュース№272, 5月6日発行)

## デジタル画像処理システムPROSIDの使用上の注意

このたび公開したPROSID[1]では、グラフィカI5048を初期化する機能が完全ではありません。当面、PROSIDを実行する前にIPSPの初期化ルーチンを流してください。

なお、PROSIDのマニュアル[2]が刊行されましたので、お知らせします。

**参考文献**

1. デジタル画像処理システムPROSIDの公開，九大大型計算機センターニュース№271.
2. 計算機マニュアル FACOM OS IV PROSID解説書，70AR-5690-1，富士通㈱.

(センターニュース№272，5月6日発行)

**大学間コンピュータネットワークによる他大型計算機センターの利用について**

このたび，DDXパケット交換網と特定通信回線及び公衆通信回線との相互接続が承認され，当センターに接続されているすべての端局より，他大型計算機センターの利用が可能となりましたのでお知らせします。

なお，利用の手引については，TSSコマンド“MANUAL”でNLPに出力することができます。

詳しくはセンターニュース№252をご参照ください。

(センターニュース№272，5月6日発行)